



第8回かながわ教育学講座

令和3年11月28日、第8回かながわ教育学講座が開講されました。「道徳教育」をテーマとした今回の講座では、神奈川県立総合教育センター野口義嗣教育指導員による講義を受けた後、その学びをいかしたグループ活動を行いました。



講義「道徳教育」

講義「道徳教育」では、いま求められている道徳教育や道徳科の授業について理解を深めていきました。具体的には、道徳教育と特別の教科「道徳」、いわゆる「道徳科」とはどう違うのか、道徳が教科化され何が変わるのか等を確認しました。講義では、「道徳教育は道徳科を要として学校教育全体を通しておこなうもの」であることを学びました。また、講義中の演習では、「雨のバス停留所」という資料を用いて、受講者たちは「考え議論する道徳」となるような発問を考えました。最後に、講師からの「道徳教育を充実させて日本の未来を作っていくってほしい」というメッセージを受け取りました。

グループ活動

グループ活動では、子どもの道徳性を養うためにはどのような教育活動が考えられるかを話し合いました。受講者同士で積極的に議論を重ねる中で、学校における様々な教育活動が道徳教育に結び付くことに気付き、最後は全体で発表を行いお互いの気付きを共有しました。



活動の最後には、グループ担当者から「それぞれの教育活動との関連はどうか」「どのように評価するか」「押しつけになっていないか」「児童・生徒との繋がりを意識しているか」等に着目した指導・講評が行われ、受講者はテーマである道徳教育についての認識を新たにしました。

受講者の感想

- 道徳教育と道徳科について混乱していたのですが、なんとなく理解できました。また、教科だけでなく、「教育活動全体を通して道徳を関連付けることが大切である」と学ぶことができました。
- 道徳の授業を組み立てる構成として、「自分のこととして考えること」が大切であることを学びました。さらに、活動を考えたことで、様々な道徳的な活動が生活の中にあることを感じる事ができ、日常的な生活を振り返ることも道徳的な活動に繋がることを感じました。